



しぜんさいがいでんしょうひ
自然災害伝承碑って？

かこ はつせい つなみ こうすい かさんさいがい としやさいがいてう
過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然
災害のようすが書かれた石碑やモニュメントのことじゃよ。



2018年7月に起こった大雨災害の時に、多くの犠牲者が出た広島県坂町には、「自然災害伝承碑」がありました。それは111年前に起きた大雨の被害を伝えるものでした。しかし、2018年の災害が発生した時に、その付近に住んでいた人は、「石碑があるのは知っていたが、関心を持って碑文を読んでいなかった。水害について深く考えた事は無かった。」(平成30年8月17日 中国新聞) と言いました。

石碑が建てられた時には、そこに住んでいる人たちは、水害への備えをしていたことでしょう。しかし、時がたつにつれて災害のことはだんだん忘れられてしまい、おじいさんやおばあさんから子供たちに、世代を越えて災害のようすを伝えることはしだいに難しくなっているようです。それでは災害の記憶を忘れないように、過去からのメッセージを、今を生きる人に伝えるためにはどうすればよいのでしょうか？

国土地理院では、災害の被害のようすを未来に伝えていくために、自然災害伝承碑を地図に載せることにしました。過去の自然災害から学んだことを地域の人たちにお知らせして、災害の危険性を理解して避難に結びつけることを目指しています。下の図のように、自然災害伝承碑を国土地理院のウェブ地図「地理院地図」と紙地図「2万5千分1地形図」の両方に載せていきます。地理院地図では、100字程度に要約された、自然災害伝承碑に書かれた内容を見ることがもできます。地理院地図での公開は6月からを予定しています。ぜひ、国土地理院のホームページに見に来てください！

自然災害伝承碑



出典:大阪府警察

2019年6月から
順次公開予定



2019年9月から
順次掲載予定



(応用地理部)